

## 歴史研修会 特別企画 神話の国出雲を訪ねる

(平成27年5月31日～6月1日)

5月の歴史研修会は、神話の故郷出雲を訪ねた。参加者は28名、歴史日和に恵まれ、座学と探訪を織り込んだ中味の濃い旅行となった。

この企画に当っては、出雲委員会が発足し、歴史(岩本)、神話(川井)、出雲国風土記(古川)、出雲と大和(中井)、古墳(坂東)、旅行計画(鈴木)の分担により、学習と検討を重ね準備した。

初日、定刻5分前には全員が揃い、出発。鈴木添乗員の挨拶の後、車中での歴史講義が始まる。

まず、岩本先生の「古代の出雲」。弥生時代から古墳時代、更に8世紀の律令時代まで、出雲の歴史の専門的な解説がある。

川井さんからは「神話と出雲」のお話。出雲神話の主の大国主命、出雲大社のご祭神だが、不思議なことに中世では素戔鳴尊になっていた。また、ヤマタノオロチの尾から取出された草薙剣(くさなぎのつるぎ)を、天上を追放された素戔鳴尊が天照大神に献上したのは何故か。

神話の神々の解説に留まらず、全員に神話の神々の役が割り振られて解説される。これは、夜の宴会で、川井イザナギ尊の命による「なりすましの神々」の自演ショウの披露へとつながる。

3番手は、古川さんの「出雲国風土記」。国造出雲氏の手で編纂され、出雲の地理志や、記紀とは異なる固有の伝承が多く見られる。例えば、ヤマタノオロチ退治の話は無く、国譲りでも、大国主命が出雲だけは守ると宣言する。等々

4番手の中井さん、「出雲と大和のつながり」で、古代史の村井康彦先生の説を紹介。「大物主大神と大国主の関係」、「邪馬台国と出雲族、神武の東征、大和朝廷成立」など独自の謎解きが面白い。

最後は坂東が、訪問場所の見どころの説明と、遺跡や古墳、銅鐸の分類の解説を行なう。

バスは予定より30分ほど早く「国譲り」と「国引き」の舞台である稲佐の浜に到着。

次いで「島根県立古代出雲歴史博物館」、出雲大社境内から出土した宇豆柱、古代の出雲大社(48m)の模型、「西谷墳墓群史跡公園」「荒神谷遺跡」から出た国宝の銅剣、銅鐸などを見学した。

「島根ワイナリー」では、心行くまでワインを試飲し、宿所「ニューウェルシティイズモ」に到着。夜の宴会ではお酒の出方が少なかったようだ。



国譲りの現場 稲佐の浜

2日目は快晴、先ず出雲大社へ。ここでは「2礼4拍手1礼」が正しいやり方。神様は横向き(西向き)なので、西に回ってもう一度礼拝する。

西谷墳墓群では、弥生時代後期に造られた「四隅突出型墳丘墓」を見た。この型は出雲独特のもので北陸にも見られる。

荒神谷遺跡では、358本の銅剣などの出土地点を見学した。偶然の発見とされるが、出雲をもっと掘れば色々なものが出るのではと思う。

昼食後は眠る間もなく、川井さんの難問の歴史クイズと俳句の時間。因みに青木さん、羽尻さんが同点優勝でした。

帰路も殆ど渋滞がなく予定より30分早い5時15分に西大寺駅に到着。心地よい疲労と充実感を土産に家路につきました。

参加の皆様、歴史詰めめの2日間まことにお疲れ様。世話人の皆様、特に格安の旅行を企画・案内して頂いた鈴木観光さん、有難うございました。

(文責 坂東久平)